

「夫婦船で乗り切っど」

— ハッスル・ハッスル —

東町漁業協同組合女性部 濱 チカエ

1 地域及び漁業の概要

東町は、鹿児島県の北端に位置した長島本島の南北に連なる中央山地帯を境とし、東は八代海に面し、西は長島町と接している。町内は長島本島、伊唐島、獅子島、諸浦島の4有人島と大小18の無人の島々からなっている(図1)。

人口は7,251名で、就業人口は3,696名。産業別では、第1次産業に1,498名(40.5%)、第2,3次産業に2,198名(59.5%)就業している(町民所得統計:平成13年度)。

その中で第1次産業に就業している1,498名の構成は、水産業769名(51.3%)、農業が724名(48.3%)、その他5名(0.3%)で、水産業は重要な位置を占めている。

水産業は、急深で波静かな海域を活用した養殖業と漁船漁業を組み合わせ盛んである。

平成15年度における東町漁協の組合員数は、721名(正組合員483名、准組合員238名)で、営まれている漁業種類は、磯建網195統、魚類養殖165統、のり養殖147統、たこつぼ103統、吾智網70統等となっている(表1)。

総水揚高110億円は、県内でも屈指の漁協である。各漁業の水揚量及び水揚げ金額の内訳は、魚類養殖業が14,678トン、金額で99.8億円、吾智網が317トン・2.1億円、ヒトエグサ養殖が92トン・1.6億円、つり漁業が97トン・1.0億円等となっている(表2)。

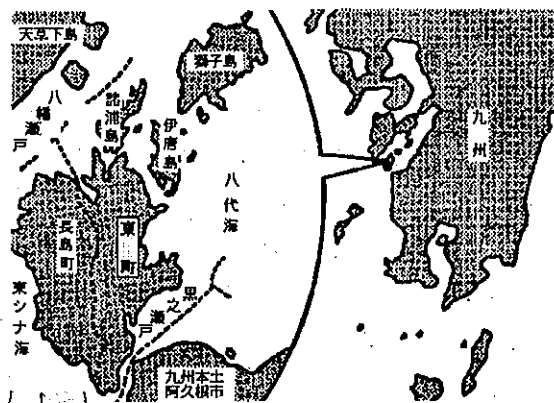


図-1 東町の位置

表-1 漁業種類別経営体数

種別	統数	種別	統数
磯建網漁業	195	固定式刺網漁業	9
魚類養殖漁業	165	地曳網漁業	8
のり養殖漁業	147	カレイ建網漁業	8
タコツボ漁業	103	潜水器漁業	7
吾智網漁業	70	底流網漁業	6
小型定置網漁業	66	まき網漁業	5
ボラ籠網漁業	54	棒受網漁業	5
シバ籠網漁業	54	機船船曳網	5
イカ追込漁業	25	ボラ建網漁業	4
エビ建網漁業	20	ワカメ養殖漁業	4
ウシノシタ建網漁業	20	キビナゴ建網漁業	3
母貝養殖漁業	12	イカ籠網漁業	1
稚魚追込漁業	11	パイ籠漁業	1

(資料:平成15年度漁協業務報告書)

表-2 漁業種類別水揚げ数量及び金額

漁業種類	数量(トン)	金額(千円)
魚類養殖漁業	14,678	9,979,819
吾智網漁業	317	213,519
つり漁業	97	98,475
ヒトエグサ養殖漁業(乾重)	92	156,294
籠漁業	84	65,742
磯建網漁業	80	72,286
定置網漁業	60	39,138
巻網漁業	52	34,789
すくい網漁業	48	91,475
タコツボ漁業	43	39,005
根付け漁業	28	19,022
真珠母貝養殖漁業	19	28,050
イカ追込網漁業	9	9,834
延縄漁業	8	13,191
えび刺網	2	6,297
その他(他港水揚げ)	624	99,128
計	16,241	10,966,064

(資料:平成15年度漁協業務報告書)

東町漁協の女性部員数は、平成 15 年度現在 106 名で、その内、漁船漁業に常時従事している女性は 4 名である。今回は、漁船漁業に携わる女性の立場として発表したいと思います。

2 漁船漁業への取り組み

①漁業に従事した動機

結婚当初、主人は、吾智網とモジャコ採捕を主体に漁業を営んでおり、私は、吾智網を時々手伝うくらいであった。モジャコ漁の時は乗り子 1 人に 50 万円を支払っていたことから、何とか経営面で 1 人分でも経費削減を図れないかと考え、今から 12 年前の平成 4 年、娘が 4 歳の時に一念発起して、主人に頼み込んで私もモジャコ漁に出ることにした。

私の所は、本船(吾智網船)の「千香丸」(4.98 トン)と小型船の「ゆか丸」(1.84 トン)の 2 隻の船を所有している。私と娘の名前を主人が付けてくれた。

初めてこの本船でモジャコ漁に出漁した時、最初のうちは波も穏やかであったが、進むにつれ波も高くなり予想以上に船酔いは辛く何度となく嘔吐し吐血も度々であった。モジャコ漁は東シナ海の大海原での操業であるから、危険な事も当然ある。漁業は、板子一枚、この波の上の操業は体験した者でなければ分からないが、誰でもこの苦しみを乗り越えているのだと思い、自分にムチ打って頑張った。操業は藻を探すためひたすら船を走らせるが、数メートルもあるような藻に出会った時はワクワクしながら網を入れ、引き上げ、何キロものモジャコを豊漁した時は言葉に成らないほど嬉しく辛かった事も忘れるほどであった。その小さなモジャコを丁寧に扱い、元気で大きな将来の(東)ブリになってもらうように祈りつつ、又、気合を入れなおして次の藻を目指し急ピッチで船を走らせたことを今でも鮮明に記憶している。この経験で私は漁業の醍醐味に魅せられ、漁業に従事しようと決意した。

②現在の漁業活動等

その後、私は、吾智網や磯建網などの漁業も夫と一緒に操業するようになり、人件費の削減や夫の負担軽減等、我が家の漁業経営にとってある程度の手助けができるようになってきた。現在、年間の大半は吾智網、一本釣りを操業し、時季に応じてモジャコ漁、ハモ延縄、磯建網漁等を操業している(図 2)が、ハモ延縄などは、私が手伝うようになってから鉢数を増やし操業規模も拡大した。モジャコ漁は 3 年前に主人が怪我をして体調を崩し、現在は休漁している。漁業収入は、モジャコ漁を操業していた時期はおよそ 500 万円以上/年、休止以降は減額したが、漁業の傍ら甘藷、馬鈴薯の生産等も営んでおり、農業との兼業化も家計面では助けとなっている。

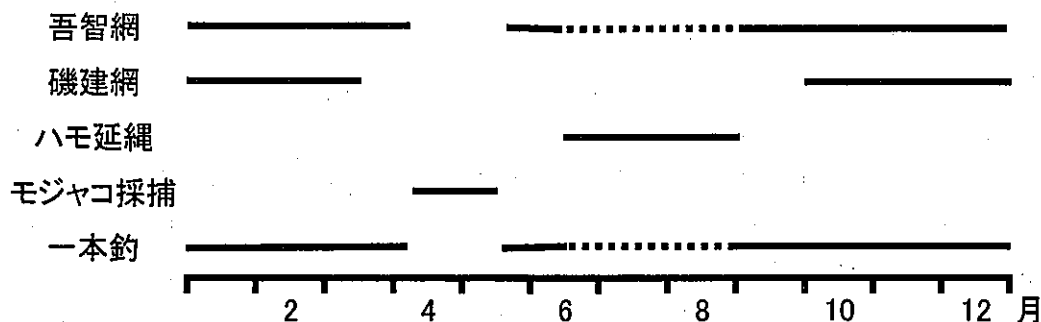


図-2 年間操業スケジュール

吾智網漁，一本釣漁業の時は，肌を刺す寒風の中や朝もやの立ちこめる早朝から日没まで，延縄漁，磯建網漁の時は，夕方及び夜間に出漁して，早朝に引き揚げるといような操業を行っている。最もハードなハモ延縄漁は，6月～8月の約2ヶ月半操業するが，その操業スケジュールは市場に水揚げ後，朝8時から日中の殆どを操業準備にあて，夕方5時から真夜中1時頃まで操業している。(図-3)。

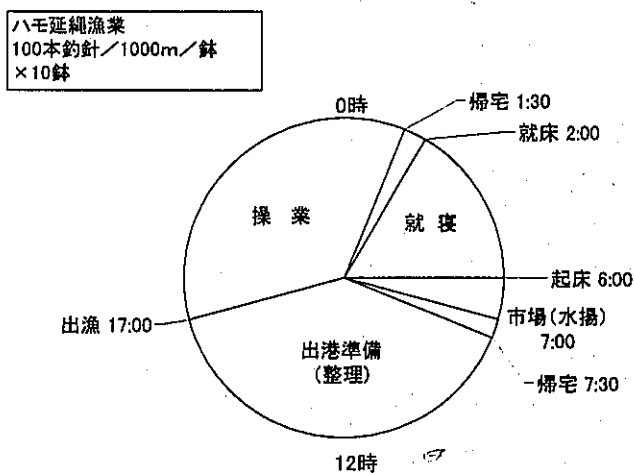


図-3 ハモ延縄時における日間作業スケジュール

日中の準備作業は，短時間ではあるが義母が代わってしてくれるので仮眠をとることができ，母の協力には多大な感謝の念を持っている。

③漁業の厳しさ

モジャコ漁に限らず，漁業は危険とは常に隣り合わせと言っても過言ではない。海が穏やかな日はいいが，一旦海が荒れだすと非常に危険な状態になる。昨年4月には同じ東町の僚船が甌島沖で転覆，悲惨な海難事故であったが，子を持つ親として人事とは思えず，母親の無念さを思う時，例えようも無く身震いしたことが昨日のここのようにありありと目に浮かんでくる。漁船漁業で生計をたてている者としては，家族のために，そのような厳しい状況の下でも出漁しなければならない。何故なら漁業は生涯にわたり私達に与えられた聖職であると思っているからである。

④家族の絆

漁業に就いてから家族内で次のようなことがあった。

平成13年のある日のこと，中学2年生になった娘が5月のゴールデンウィークに「私もモジャコ捕りに行ってみたい」と言い出した。娘は小学生の頃から私たちのモジャコ漁の話聞く毎に，「自分も1年でも早くモジャコ捕りに行ってみたい，そして父母の手伝

いをしたい」と思い続けていたと言うのである。海難事故等の最悪のことも頭をかすめた
が、本人の熱意は強く、娘の将来の為には辛く厳しい体験も必要ではないだろうかと考え、
連れて行く事を決断した。そこで、私たちは乗船させるにあたり、娘に2つの条件を出し
た。一つは、モジャコ漁から帰ったら感想文を書くこと、もう一つは持久走大会で2位以
上となること。この2つを約束し、危険を承知で連れて行くことにした。

1日目、海は穏やかで出航できたが、徐々に海が険しくなり枕崎の港に停泊し波が治ま
るのを待つことにした。その間、家族3人、狭いブリッジの中で家では話せないことを色
々と話すことができた。4日目にやっと時化も治まったので、黒島を目指し枕崎港を出
航した。やはり外海は内海と違って、沖にでると大きな波が幾度となく船に叩き付け、娘
は船にしがみついているのがやっとの状態ではあったが、仕事を与えない訳にはいかな
いので、目的地までの航行中、マストに登り藻を見つける仕事を任せた。沖に出れば出るほ
ど波は高くなり、結局、娘はマストから降り、船べりにしがみつきながら私たちの漁を見
守っていた。娘にとっては、海が荒れたからこそ、私達の仕事の大変さ、厳しさを自分の
目、耳、心で受け止め、また、両親への感謝の気持ちを体一杯で受け止めることができ、
私達の選択は間違っていなかったと確信した。

モジャコ漁から帰った翌朝、テーブルの上には「海から教わったこと」と題した作文が
置いてあり、早速、約束の一つを果たした。2つ目の約束は時化の為、帰港予定が5日間
遅れ、持久走大会は不参加となり叶わなかったが、娘の漁業に対する理解度が増えたこと
で、学業以上の成果があったことに、私達は喜びと漁業に対する元気を貰い、家族の絆も
深まった出来事であったと言える。

また、夫婦で漁業を行うことによって夫の精神的な負担も軽くなるとともに、家族の絆
も確固としたものになったと感じながら漁業に勤しんでいる。

3 今後の展望

私の夢は、以前のように船を満船にし大漁旗を元気よくたなびかせながら伊唐港に帰港
することである。主人は一時体調を崩したが、順調な快復を示しているので、近い将来き
っと夢が実現できるものと希望を胸に頑張っているところである。

最近、漁獲量も減った上に魚価も下がるなど、プラスの話はあまり耳にしない状況で
あるが、私なりに何か元気を取り戻すきっかけになればと、平成8年に東町で開催され
たNHKのど自慢大会に思いきって出場、特別賞を頂いた。

今後も家族の絆を大事にしながら、そして、漁業の楽しみを抱きながら漁船漁業に携わ
っていきたい。私の周りには勿論の事、私の住む東町も又、水産業界も今元気が無いよう
な気がしてならない。これからは、今流行の「ハッスル・ハッスル」の精神で今後迫りくる
であろう荒波や幾多の困難を、家族一丸、そして、地域一丸となって乗り越えていこうと
思っている。

また、私達、漁協女性部活動の一環である魚食普及運動や、東町特産のブリ、たこ、ア
オサや、さまざまな魚に付加価値をつけた料理講習会などを通じ、海の恩恵を受けている
私達は、環境保全運動と私達母親の意識改革で行政、異業種、地域と一体となって、わか
しお天然石鰯、てんぷら廃油を利用したEM石鰯の普及等を積極的に活動し、子孫に自信
と誇りを持って、母なる海を譲り渡していきたい。そして、一般の方々に漁業への理解を

深めてもらい自らの知識も向上させながら、夢のある漁村生活を目指して頑張っていきたいと思っている。更に、今後とも資源管理や魚礁の設置等更なる水産振興策が講じられ、私達のような夫婦船が永遠に続けることが出来るように願っている。

